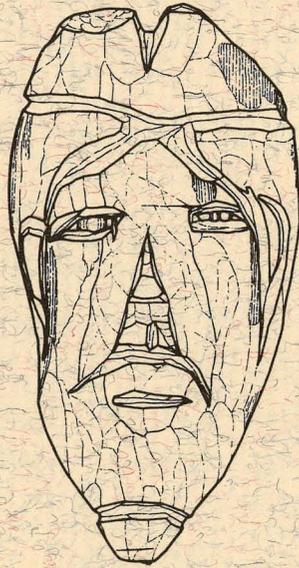


昭和57
年 度

平城宮跡発掘調査部

発掘調査概報



1983

奈良国立文化財研究所

凡 例

1. 本書は、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部が、昭和57年度に行なった平城宮跡および平城京内遺跡の概要報告である。各章の執筆は各現場の担当者が行なった。
2. 朱雀大路(第141-25次)、外京二条六坊十一坪(第144-1次)、左京四条四坊九坪(第141-9次)、平城京東掘河(第141-23次)、左京九条大路(第141-37次)、および法隆寺については別途報告書を発行したので、本書には収録していない。
3. 遺構図に付した座標値は、平城宮内遺構の場合が平城方位に基づいた座標値、平城京内遺構の場合が国土座標値、薬師寺境内の場合が伽藍中軸に基づいた座標値である。平城方位とは第二次内裏内郭をめぐる築地回廊の北面北雨落溝の方位に基づくもので(『平城宮発掘調査報告』Ⅶ)、宮内各所に設けた基準点を(0.0)とし、東西南北をEWSNとして正数(単位m)で表示。
4. 遺構図には、遺構ごとに一連の番号を付し、その前にSA;築地・塀、SB;建物、SD;溝・濠、SE;井戸、SF;道路、SK;土壙、SS;足場SX;その他などの分類番号を示した。

目 次

	P
I 平城宮の調査	
1 内裏北外郭東北部の調査 第139次	1
2 南面大垣―朱雀門西―の調査 第143次	9
3 推定第一次朝堂院地区の調査 第140次	12
4 第一次朝集殿推定地の調査 第146次	29
II 平城京の調査	36
1 左京一条二坊・三坊の調査 第141-13次	38
2 左京一条三坊二坪の調査 第141-2次	39
3 左京一条二坊内の調査 第141-15・19次	40
4 左京二条二坊十三坪の調査 第141次-5次	41
5 左京二条三坊十六坪の調査 第141次-17次	43
6 左京三条二坊七坪の調査 第141-35次	45
7 左京三条三坊七坪の調査 第141-28次	47
8 左京(外京)三条五坊四坪の調査 第141-7次	48
9 左京四条二坊三坪の調査 第141-31次	49
10 左京四条二坊十五坪(田村第推定地)の調査 第145次	51
11 左京四条三坊十二坪の調査 第141-29次	55
12 左京九条三坊三坪の調査 第148次	56
13 九条大路および京南辺部の調査 第141-8次	58
14 右京一条二坊六・十一坪の調査 第142次	59
15 右京一条二坊三坪の調査 第141-14次	60
16 右京三条一坊八坪の調査 第141-4次	61
17 右京三条三坊五坪の調査 第141-26次	62
18 右京六条三坊十坪の調査 第147次	64
III 京内寺院の調査	
1 薬師寺中門の調査	65
2 薬師寺旧境内の調査 第141-22次	73
3 法華寺旧境内の調査 (1) 第141-1次	74
4 " (2)	75
5 " (3) 第141-3次	76
6 " (4) 第141-6次	76
7 東大寺旧境内の調査 第141-32次	77
未記載調査一覧	78

木彫面 表紙カッタ

平城宮第139次調査(1982年6月)で、内裏東北方の東大溝から出土した。全長16.6 cm、幅8.6 cm、厚さ1.7 cm。

ヒノキの白木作りの面である。内側に空洞がある材(径約10cm)から倒卵形の板を削りとり、大胆な刀づかいで人面を表わす。額にそって1条の溝をめぐらせ、頭頂をV字状に切り欠くのは、頭巾をかぶる表現か。額の溝の中央から両頬にかけて弧状に彫りこんで鬢を表わす。この彫りこみは眉の表現をも兼ねるらしく、目の上の彫りは大きい。目は上・下のまぶたを彫り、瞳を小さくえぐる。耳は弧線で表わす。右耳から右頬にかけてゆがんでいるのは、原材自体のゆがみによる。鼻は上半扁平、下半のみが高まる。鼻の下の上半は低く作り、下半を高め、その中央に人中を彫る。唇は、弓なりの彫りと真直ぐな短い彫りでしめしている。削り細めた顎の下端近くに横溝を彫る。以下をあごひげとして表わす意図か、あるいは装着用の溝か。8世紀前半。

昭和57
年 度

平城宮跡発掘調査部発掘調査概報

1983. 5

奈良国立文化財研究所

**Preliminary Report
of
Archaeological Excavations**

carried on from April 1982 to March 1983

1983

**Nara National Cultural
Properties Research Institute**